

中尾・牛牧地区遺跡群  
元野地区遺跡群  
中尾地区遺跡群  
船引地区遺跡群  
西都原地区遺跡群

平成5年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告

平成6年3月

宮崎県教育委員会

## 序

日ごろから埋蔵文化財の保護・活用に対し、深いご理解をいただき厚くお礼申し上げます。宮崎県内各地では、各種の農業基盤整備事業が実施されておりますが、事業実施予定地内にも、多くの遺跡が存在し、文化財の保護と農業基盤整備事業との調整がひとつの課題となっております。県教育委員会では、農政部局との協議資料として、事業実施予定地内の分布調査や発掘調査を実施し、遺跡の所在の有無、性格、範囲等の基礎資料を作成しております。

本報告書は、平成5年度に試掘調査を実施しました中尾・牛牧地区遺跡など5か所の調査結果についての調査結果についての概要を報告するものであります。これらの調査結果が、文化財の保護に生かされるとともに、地域の歴史の解明、また社会教育の場で活用されるなど、役立てていただければ幸いに存じます。

最後に、調査にあたってご協力をいただいた地元の土地改良区ならびに市町村教育委員会、各農林振興局などの諸関係機関の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成6年3月

宮崎県教育委員会  
教育長 高山義孝

## 例　　言

1. 本報告書は、宮崎県教育委員会が平成5年度の国庫補助を得て実施した発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業に伴う遺跡の確認調査として実施した。
3. 遺跡の名称は、現在遺跡として報告されておらず、今回の分布調査、試掘設査等で確認された遺跡については、農業基盤整備事業の地区名を使用している。また、遺跡の推定地が広範囲で、その中に数か所の遺物散布地等がある場合には、「遺跡群」と表現している。正式な遺跡名は、本調査に伴い字名などを参考に命名される予定である。
4. 発掘調査は、県文化課埋蔵文化財第二係主査石川悦雄、同主査永友良典、同主査菅付和樹、同主事吉本正典、同主事東憲章が担当した。また、西都市教育委員会養方政幾ほか関係市町村教育委員会の協力を得た。
5. 本報告書の執筆は各担当者が当たり、編集は永友がおこなった。
6. 出土した遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで保管している。

## 目　　次

第Ⅰ章 平成5年度の発掘調査概要	1
第Ⅱ章 発掘調査の結果	2
第1節 中尾・牛牧地区遺跡群	2
第2節 元野地区遺跡群	5
第3節 中尾地区遺跡群	8
第4節 船引地区遺跡群	11
第5節 西都原地区遺跡群	14

# 第Ⅰ章 平成5年度の発掘調査概要

平成5年度の農業基盤整備事業に伴う発掘調査は、は場整備事業、農地保全事業、広域農道建設事業、農免道路建設事業、及び国営農業水利事業等の農業基盤整備に関する各種開発事業のうち、今年度及び来年度以降の実施予定地についてか所の分布調査を行い、その内の22ヶ所について確認調査をした。

遺跡名等	所在地	調査期間	調査担当
中尾・牛牧地区遺跡	高鍋町	平成5年4月28日～4月30日	菅付 和樹
向屋敷・橋上遺跡	高岡町	平成5年5月17日～5月20日	菅付 和樹
上ノ原遺跡	宮崎市	平成5年5月25日・26日	菅付 和樹
下三輪遺跡	延岡市	平成5年6月7日～6月10日	東 憲章
柏塚遺跡	国富町	平成5年7月19日	菅付 和樹
西都原地区遺跡	西都市	平成5年7月12日～8月25日	東 憲章
高野原遺跡	田野町	平成5年7月26日	菅付 和樹
茅畑遺跡	えびの市	平成5年8月3日	石川 悅雄
中尾・牛牧地区遺跡	高鍋町	平成5年8月4日～8月19日	永友 良典
下山第1・第2遺跡	佐土原町	平成5年8月11日	菅付 和樹
一里山遺跡	高岡町	平成5年8月19日	菅付 和樹
高野原遺跡	田野町	平成5年8月3日～平成6年3月25日	菅付 和樹
上の原遺跡	清武町	平成5年8月31日～9月4日	菅付 和樹
外原遺跡	西都市	平成5年12月7日・8日・16日	永友 良典
速日峰地区遺跡	北方町	平成5年12月22日	永友 良典
中尾地区遺跡	清武町・田野町	平成5年1月24日～27日	菅付 和樹
元野地区遺跡	田野町	平成5年2月2日・3日	菅付 和樹
西都原地区遺跡	西都市	平成5年1月20日～3月18日	永友・東
船引地区遺跡	清武町	平成6年2月8日～10日	菅付 和樹
速日峰地区遺跡	北方町	平成5年3月15日～17日	菅付 和樹
丸谷地区遺跡	都城市	平成5年3月1日	石川 悅雄
細井地区遺跡	高城町	平成5年3月18日・22日	吉本 正典

## 第Ⅱ章 発掘調査の結果

### 第1節 中尾・牛牧地区遺跡群

#### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

中尾・牛牧地区遺跡群は平成4年度から実施されている農村総合整備パイロット事業尾鈴二期地区中尾・牛牧工区内に分布する遺跡群の仮称である。中尾・牛牧地区は児湯郡高鍋町大字上江字中尾、同牛牧原、同北牛牧、同南牛牧、同下耳切、同上耳切にまたがる地区で牛牧原遺跡、下耳切第2・第3遺跡、北牛牧第1・第2遺跡の5か所の周知の埋蔵文化財包蔵地が分布している。

事業区内の確認調査は平成3年度に事業区の北半分、4年度に南半分について行っている。平成4年度には事業区の南半分で工事が実施されたことから、事前に5か所で発掘調査を行い縄文時代早期の集石遺構、弥生時代の住居跡、古墳時代の住居跡群などが検出された。遺構密度はさほど濃くはない。

平成6年度は下耳切第2遺跡と北牛牧第1遺跡の2遺跡が分布する事業区の北半分で事業実施が予定されており、4年度に試掘調査を行った箇所以外の場所について今年度も引き続き試掘調査を実施した。調査は平成5年8月4日から19日の7日間行った。

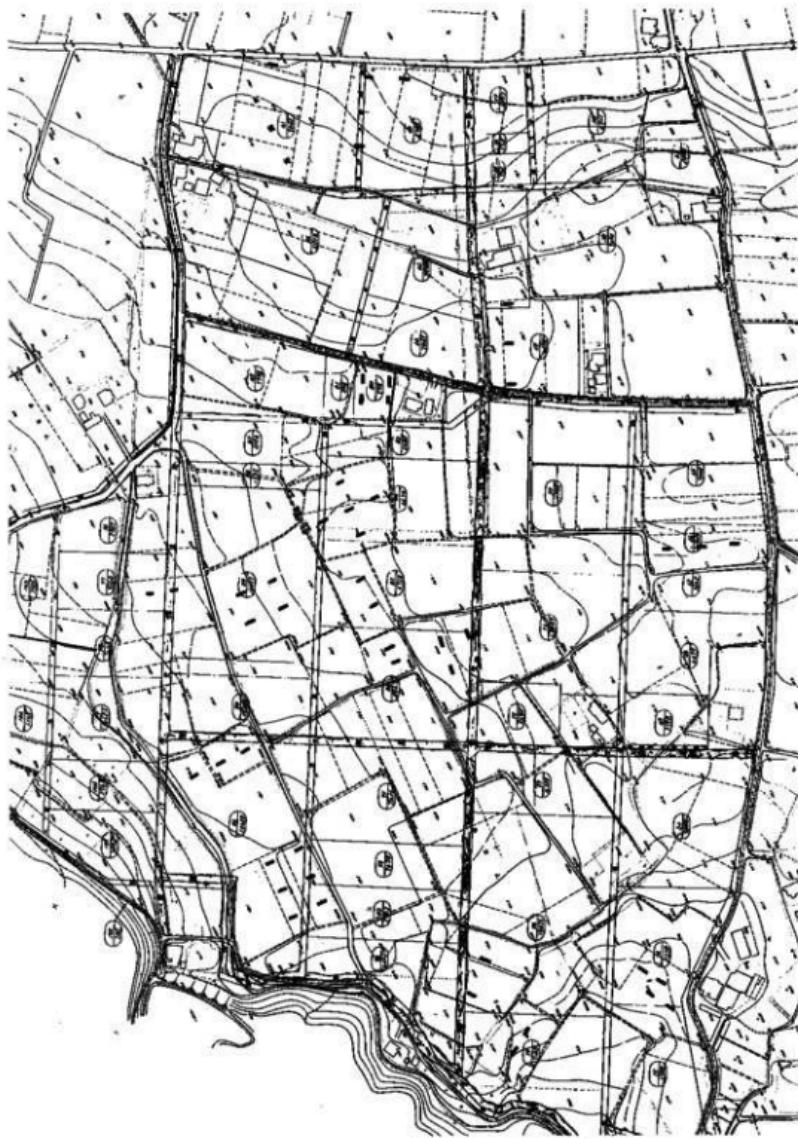
#### 2. 試掘調査の概要

試掘調査では18筆の烟に47本のトレンチを設定し、土層、遺構、遺物の確認をおこなった。設定したトレンチは大きさ2m×4mを基準に20m間隔で設定した。

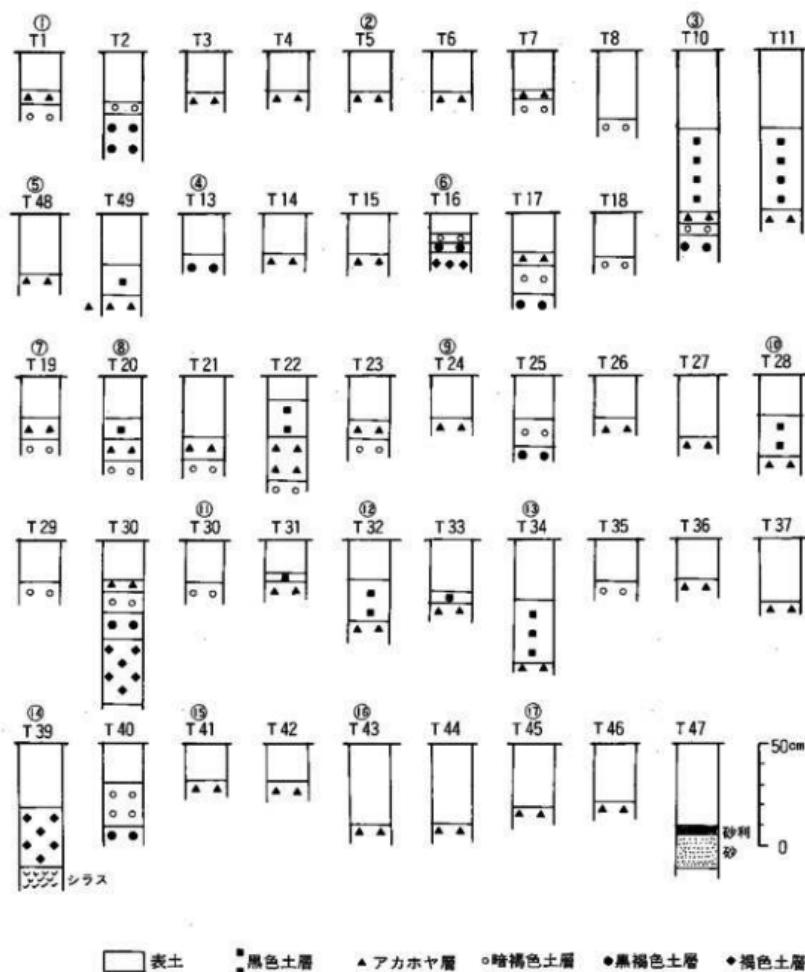
基本土層は表土層（I層）、黒色土層（II層）、アカホヤ火山灰層（III層）となるが、だいほとんどの地点でアカホヤ火山灰層あるいはその下層の黒褐色層まで削平されている。工区北側の第2地点、第3地点、第5地点、第6地点ではII層の黒色土層が残る。第18地点は谷地形となり60cm～80cmの盛土が見られる。

調査したトレンチでの遺物の出土はなく、表採でも第2地点で土器小片が若干散布する程度であったが、3か所で遺構が確認できた。第5地点のT14では径20cm～30cmのビットが4本確認された。第14地点のT39ではアカホヤ火山灰層下位の褐色層から焼角礫十数個からなる集石遺構2基が検出された。第15地点のT42では角丸方形の住居跡と思われるプランの角の一部が検出された。平成4年度の調査の際に第1地点南の道路際で住居跡の断面が確認されている。

第14地点での遺跡の広がりは地形から判断すると南側の微高地を中心とした範囲が考えられるが、第5地点および第15地点での遺跡の広がりは地形的には判断は難しい。また、平成4年度の調査同様遺構の密度が低いため試掘調査地点以外での遺構の点在も考えられる。



第1図 中尾・牛牧地区遺跡トレンチ配置図(1/4,000)



第2図 中尾・牛牧地区遺跡土層図

## 第2節 元野地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

元野地区遺跡は、田野町役場から南西へ約2.5kmに位置する標高約180mのシラス台地一帯にひろがる遺跡群の総称である。当該地区では平成4年度より県営特殊農地保全整備事業（元野地区）が実施されており、これまでに本野遺跡と高野原遺跡の一部が田野町教育委員会によって発掘調査されている。平成6年度事業予定面積が広大であるため、今回は高野原遺跡の南東部分の比較的遺物が多く採集されるところと過去に地下式横穴が陥没した畠地を中心に平成6年2月2日と3日の両日確認調査を実施した。

### 2. 確認調査の概要

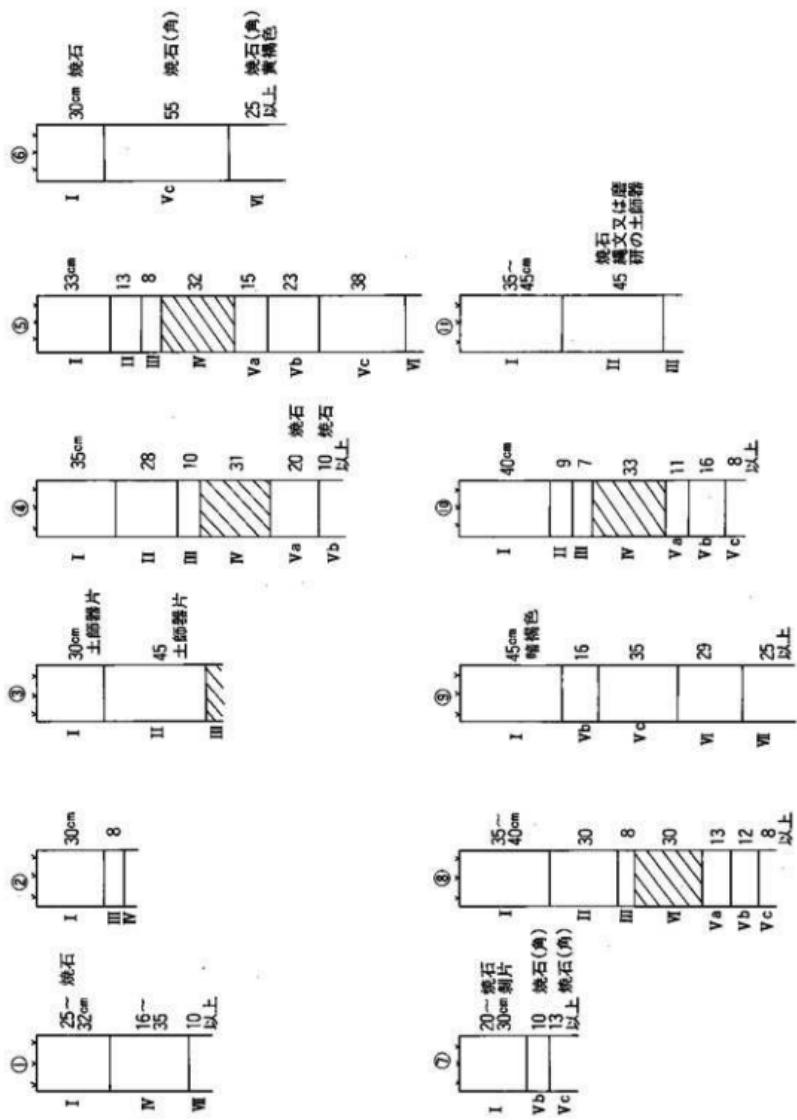
調査は地元の協力を得て作物の収穫を終えた畠について重機を用いてトレンチを入れ、埋め戻しは人力で行うという方法で実施した。ただ、地下レーザーによる探査で地下式横穴の反応が確認された神社の南東側一帯については人力により調査した。また、同じく来年度予定地の西側の畠地については葉たばこの収穫後に確認調査を行う予定である。調査の結果、II層からは磨研された縄文土器または土師器と思われる土器片が出土し、III層上面ではピットを検出した。また、V～VI層では角礫の焼石が出土する。このほか、畠地の表面では多くの遺物（縄文土器・弥生土器・土師器・打製石器・磨製石器・チップ・磨石・石皿など）が採集できる。

基本層序は次のとおりである。

- I 層 黒褐色砂質土。現耕作土。焼石やその他の遺物が見られる。
- II 層 黒色砂質土。きめ細い。遺物包含層（縄文時代後期・古墳時代）
- III 層 (暗)褐色砂質土。IV層への漸移層。ピット検出。
- IV 層 黄褐色砂質土。アカホヤ火山灰層。下部に軽石など堆積。
- V a層 暗褐色砂質土。黒褐色のブロック状の部分が見られる。非常に硬い。白色の鉱物粒や黄色の軽石粒が混じる。a～c層には小さな角礫が見られる。
- V b層 暗褐色砂質土。非常に硬い。白色の鉱物粒や黄色の軽石粒が混じる。
- V c層 暗褐色砂質土。白色の鉱物粒は見られない。
- VI 層 暗褐色砂質土（褐色土と明褐色土が混じる）。硬い褐色ブロック土が見られる。きめ細かい。焼石出土。所によってはザラザラした黄褐色砂質土があり本年度の町の調査でも出土した赤変した角礫が多く見られる箇所がある。前者の層との上下関係は不明。
- VII 層 明褐色シルト質土。粘性が強い。



第3図 元野地区遺跡トレンチ配置図(1/2,000)



第4図 元野地区遺跡土層柱状図

## 第3節 中尾地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

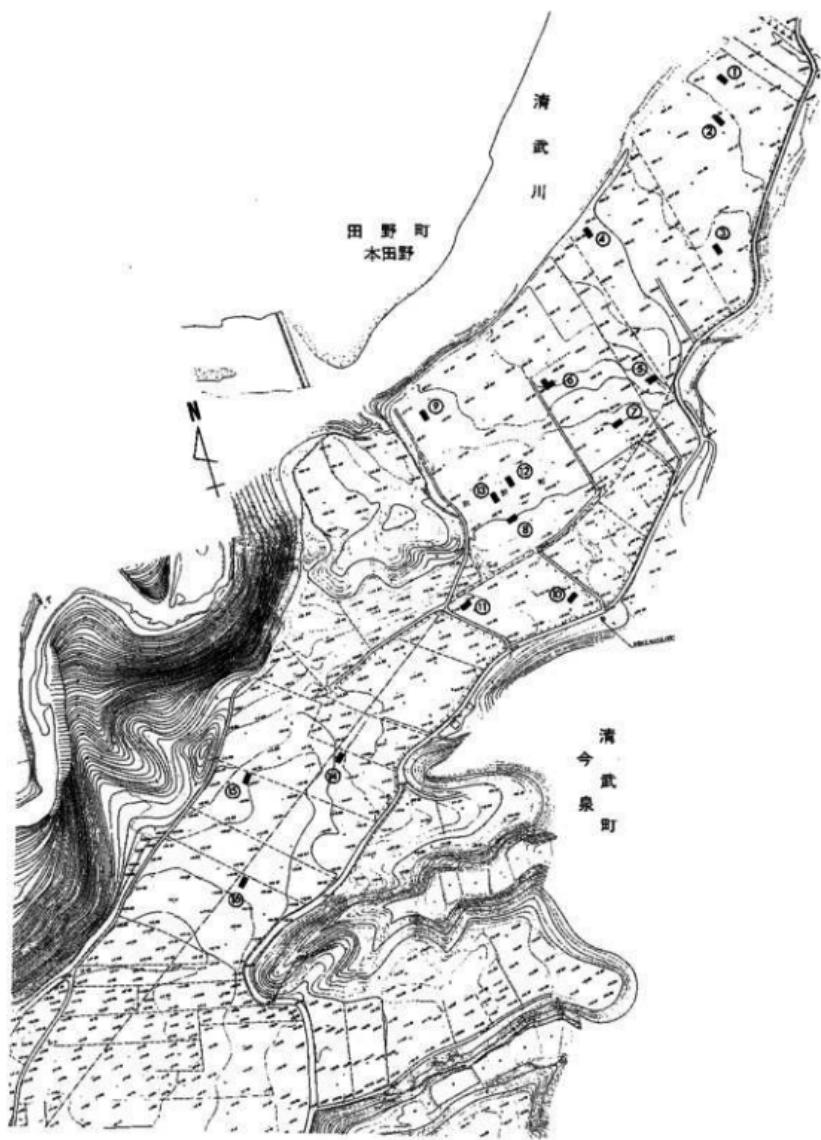
中尾地区遺跡は、田野町と清武町の町境で実施される県営特殊農地保全整備事業（中尾地区）の事業区内に存在する遺跡群の総称である。しかし、この事業は既に相当進んでおり、工事はあと檣原地区を残すのみとなって中断している。一方、これまでにこの事業に関連した発掘調査は行われていない。今回、この檣原工区について平成6年度から工事を実施することが計画され、事業区内に存在する檣原遺跡の状況を把握するために平成6年1月24日から27日にかけて確認調査を実施した。遺跡は、田野町役場から北東へ約3.5km、清武町役場から西へ約5.5kmの両町境に位置し、舌状に伸びるシラス台地の北側は清武川に抉られた深い谷となっており、南側も開析谷が台地を侵食している。

### 2. 確認調査の概要

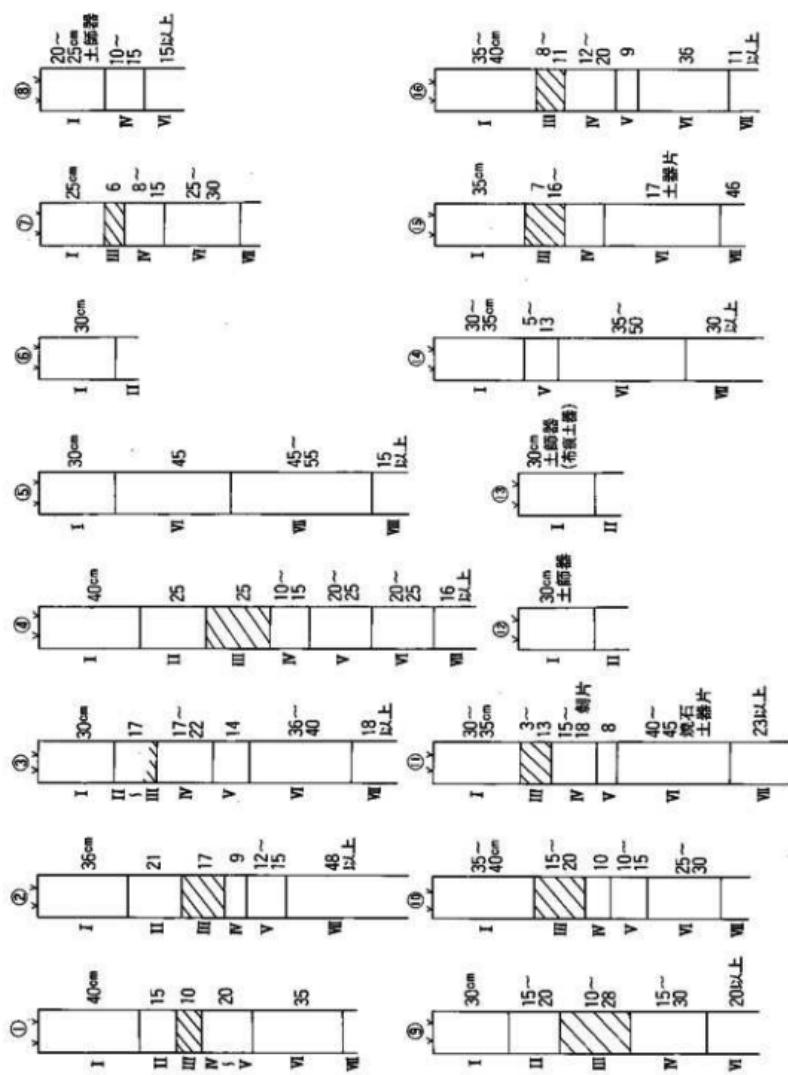
今回は、来年度の工事予定面積が確定していなかったため、とりあえず工事に入る可能性が高い東半部について、地元の協力を得て収穫の終わった東側の畑から順次重機によりトレーナーを入れて確認調査を行った。また、調査後の作付を考えて埋め戻しは人力により行った。調査の結果、少量ながらII層上面では土師器片（布痕土器）が出土し、IV層では土器片や剥片が、VI層では土器片や焼石が確認された。遺構は検出できなかった。

基本層序は次のとおりである。

- I層 黒褐色砂質土。現耕作土。平安時代の土師器片を含む。
- II層 暗褐色砂質土。アカホヤ風化土層。上部を相当削平されている。I層に土師器片が見られるため同時代の遺跡がこの層で検出される可能性がある。御池ボラ粒は見られない。
- III層 黄褐色砂質土。アカホヤ火山灰層。しまっている。下部は砂や軽石が堆積。
- IV層 黒褐色砂質土。非常に硬い。所によっては灰褐色土。黄色軽石粒が見られる。遺物包含層（縄文時代早期）。
- V層 暗褐色砂質土。白色の鉱物粒や黄色軽石粒が混じる。
- VI層 褐色砂質土。柔らかい。まれに黄色軽石粒を含む。遺物包含層（縄文時代早期）。
- VII層 暗褐色砂質土。非常に硬い。白色の鉱物粒や黄色軽石粒を含む。
- VIII層 明褐色シルト質土。きめ細くやや柔らかい。



第5図 中尾地区遺跡トレンチ配置図(1/4,000)



第6図 中尾地区遺跡土層柱状図

## 第4節 船引地区遺跡

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

船引地区遺跡は、清武町役場の北西2.5km～4.0kmの清武町大字船引字札立から字白ヶ野に至るシラス台地上に点在する11か所の遺跡群の総称である。この台地は西側を清武川が南流し、東側と台地上は大小の開析谷の侵食や大規模な地形の改革が進んでいる。当該地区に県営特殊農地保全整備事業（船引地区）が計画され、平成6年度から工事が実施されることとなったため、来年度事業にかかる白ヶ野第1遺跡・滑川第1遺跡・滑川第2遺跡についてその遺跡の性格や構造・遺物の有無などを確認するため平成6年2月8日～10日の3日間、確認調査を実施した。

### 2. 確認調査の概要

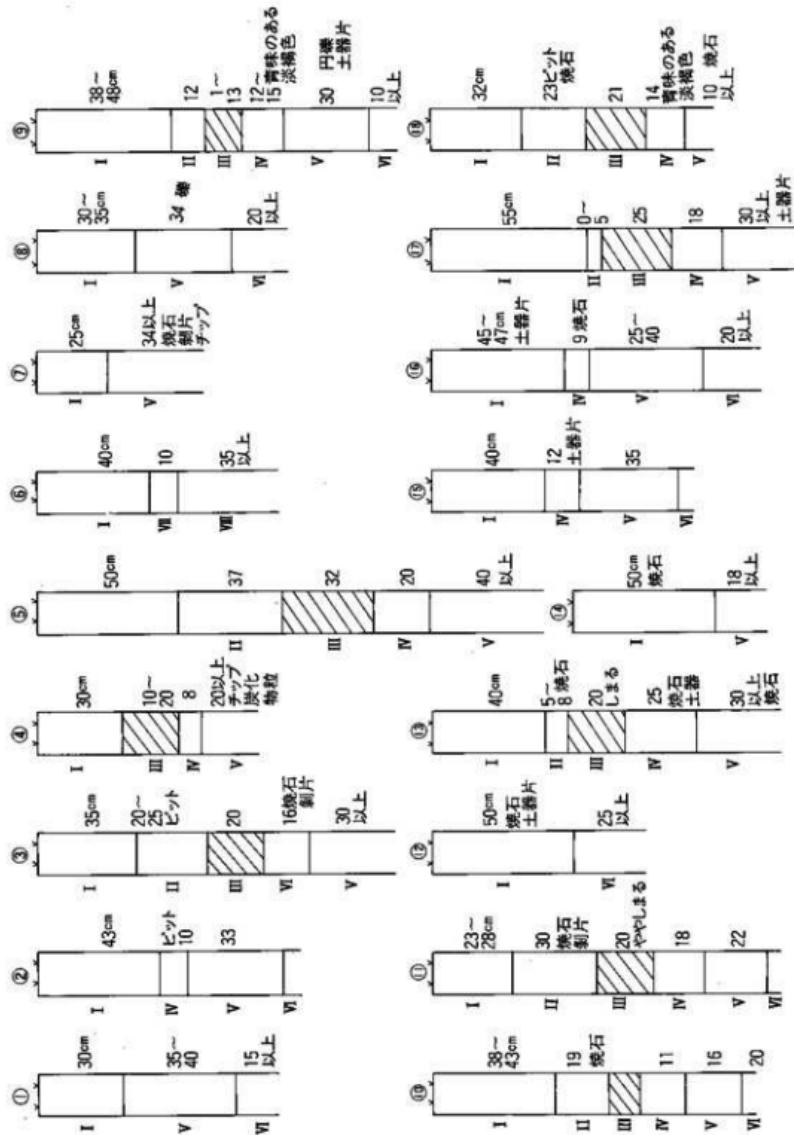
今回の確認調査は、事業予定地が広大であるため特に平成6年度の事業実施予定地を中心に調査することとして、このうち土壌消毒中の畑地と作物の収穫が終っていない畑地、ビニールハウス等を除く畑地を対象に実施した。調査は主に重機を使用して行った。また、調査後の作付のために埋め戻しへは作業員により人力で行った。畑地は全体にかなり深耕が進んでいるが、層の残りの良いところではアカホヤ火山灰層の上下に遺物包含層が確認された。

基本層序は次の通りである。

- I層 暗褐色砂質土。現在の耕作土。砂粒混じり。下部はII層土のブロックが多く混じる。
- II層 暗黄褐色砂質土。アカホヤ風化土層。遺物包含層（縄文時代後期・平安）。
- III層 黄褐色砂質土。アカホヤ火山灰層。下部は砂や軽石が堆積している。
- IV層 上部は黒(褐)色土（ブロック状）、下部に暗褐色土が混じる。柔らかい砂質土。白っぽい鉱物粒や黄色軽石粒を含む。遺物包含層（縄文時代早期）。
- V層 暗褐色砂質土に褐色砂質土がブロック状に混じる。柔らかい。若干の炭化物粒が混じる。遺物包含層（縄文時代早期）。
- VI層 上部はV層で見られた褐色砂質土に暗褐色砂質土の硬質ブロックが混じり、次第に暗褐色砂質土の硬質土層となる。この暗褐色砂質土には白色や黄色の軽石、小石が混じる。
- VII層 明褐色砂質土。非常に硬質な層。白色の鉱物粒や黄色の軽石が混じる。
- VIII層 明褐色砂質土。非常に硬質の層だが、ややきめが細かい。白色の鉱物粒は見られない。



第7図 船引地区遺跡トレンチ配置図(1/4,000)



第8図 船引地区遺跡土層柱状図

## 第5節 西都原地区遺跡群

### 1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

西都原地区遺跡群は平成5年度から実施されている農村総合整備パイロット事業尾鈴二期地区西都原工区内に分布する遺跡群の仮称である。西都原地区は国の特別史跡西都原古墳群に隣接する西都市大字三宅寺原、同原口、同原口二ノ西、同西都原東、同西都原西、同東立野、同酒元ノ上、同原口二、同丸山にまたがる地区である。地区内には寺原遺跡、原口遺跡、西都原遺跡、丸山遺跡の4か所の周知の埋蔵文化財包蔵地が分布している。

整備事業は平成5年度に西都原運動公園の北側から御陵墓の南側まで一帯の寺原遺跡と原口遺跡、平成6年度に競馬場周辺と姫塚北側の西都原遺跡と西都原資料館東側の丸山遺跡で予定されており、平成5年度に工区内全域の試掘調査を行った。

今年度工区についての試掘調査を7月12日から8月25日までの間に実施した。調査の結果、5か所で遺跡を確認したため、工事に先立ち10月上旬から発掘調査を実施し縄文時代早期の集石造構、古墳時代の住居跡群、古代の墓などが検出された。

平成6年度工区についての試掘調査は平成6年1月20日から3月18日までの間おこなった。前半は人力による作業で2m×4mを基本としたトレンチを設定した。後半は重機をつかった作業で20m～30mのトレンチを設定した。

### 2. 試掘調査の概要

平成6年度予定工事区の試掘調査は西都原遺跡の競馬場周辺をA地区、姫塚北側周辺をB地区、西都原資料館東側の丸山遺跡をC地区として調査した。A地区で弥生時代の周溝状造構、C地区で古墳の周溝や縄文時代の集石造構などが確認された。

#### A地区

A地区は男狹穂塚・女狹穂塚の東に広がる競馬場周辺の地区で182本のトレンチを設定した。

競馬コース内西部のT1～3、T14～T79ではアカホヤまでの深さが25cm～40cmを測る。南側のT1～T3、T14～T17、T23～T25、T32、T41ではアカホヤまで削平されているが、北側では黒色土層が5cm～10cm残る。T46～T79でもアカホヤまでの深さは25cm～40cmで黒色土層がわずかに残る。数か所でピット状の落込みを確認している。

競馬場コース内中央部のT4～T6、T7～T13、T80～T89のうちT7・T8、T10～T12では黒色土層までの深さが40cm、黒色土層が20cmほど見られアカホヤまでの深さが60cmと深い。小さな谷地形が入り込んでくると思われる。T4～T6はアカホヤまでの深さが30cm、T80では20cm～25cm、T81・T82、T87～T89では30cm～50cm、T83～T86では20cm～25cmを測る。造構はT81で土壙1、T82でピット2それぞれ検出している。

競馬場コース内東部のT90～T108ではアカホヤまでの深さが20cm～30cmを測り、T104、ピット1、T92で溝をそれぞれ確認している。

競馬場コース外東部のT109～T136の地区は南から谷地形が入り込んでおりアカホヤまでの深さも北側（T125～T136）で10cm～20cm、南側（T109～T112）では30cm～40cmを測る。また、道路の沿って谷が入り込んでいるよう東側にいくほどアカホヤまでの深さが深くなり80cm～100cmとなる。T120でピット1と溝が確認されている。

競馬場コース外北部の107号墳周辺では北側のT137～T156、南側のT157～T163ではアカホヤまでの深さが15cm～20cmをはかる。南側の南端のT144付近では谷地形が近いことからアカホヤまでの深さが50cm～60cmと深くなる。造構は北側のT159で径6mほどの周溝状造構1が確認された。また、T163ではピット6と溝も確認されている。南側の地区では土壇も確認されているが地下式横穴墓の堅坑の可能性もある。なお、西都市教育委員会が実施した地下レーダー探査では107号墳周辺で地下式横穴墓の玄室と思われる空洞の反応が確認されている。

競馬場コース部周回道路部のT168～T182ではアカホヤまでの深さが10cm～20cmと浅い。T170でピット2、T171で溝、T172でピット3、T176で溝をそれぞれ確認した。

また、107号墳の周溝確認を合わせて行った結果、古墳現況の裾部から5m～7m外側に径約24mの周溝を確認できた。

#### B地区

B地区は姫塚と県道に狭まれた地区で40本のトレンチを設定した。

T1～T13およびT23～T40ではアカホヤまでの深さが20cm～30cmを測る。黒色土はほとんどなくアカホヤまで削平されている。造溝はT5～T6にかけて溝が確認されている。また、T30では径50cm～60cmのピットが8本検出された。またその西のT31でもピットが確認されている。

T14～T22でもアカホヤまでの深さが20cm～30cmでT21では径20cm～30cmのピットが約70cm間隔で10数本並んで検出された。

#### C地区

C地区は西都原資料館の東側に当たる地区で41本のトレンチを設定した。

南側のT1～T4は表土20cm～30cmでアカホヤ層およびその下層となる。

T5～T10は東からの谷地形が入り込んでおり黒色土の残りも良くアカホヤまでの深さが60cm～100cmを測る。

T16、T17はアカホヤまでの深さが40cm～60cmを測り、土壇1、ピット1を検出している。

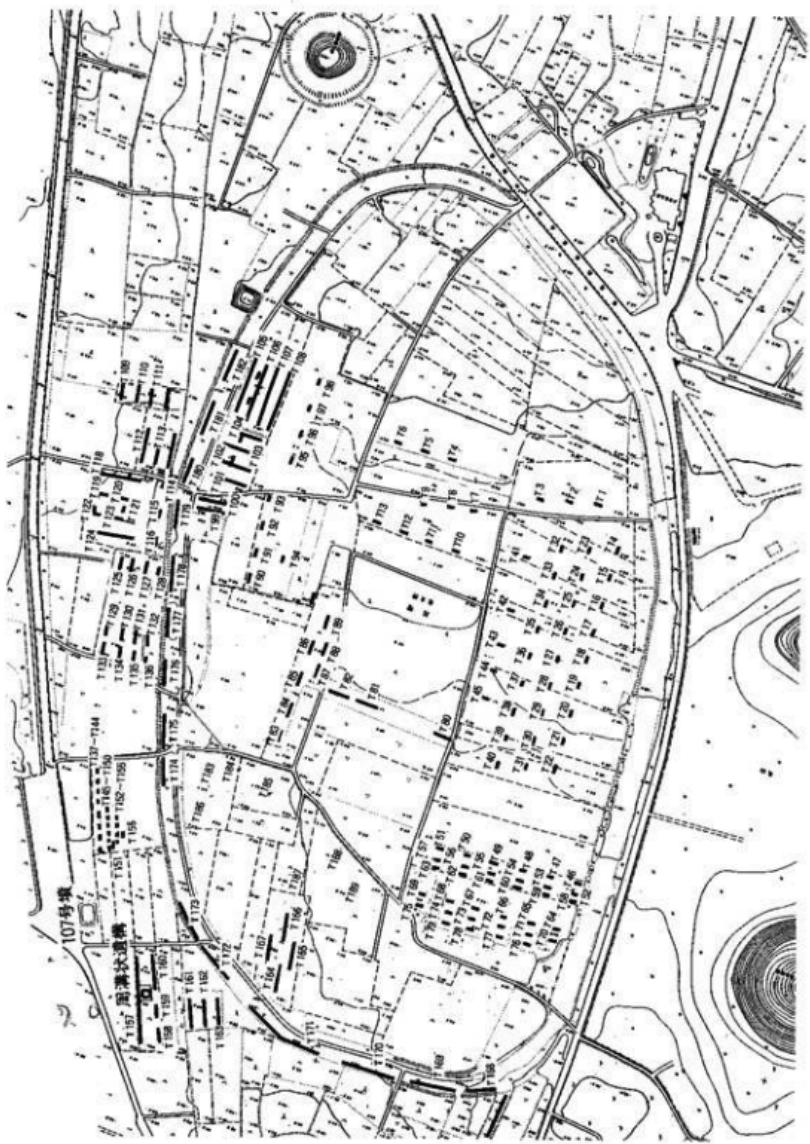
T18はアカホヤまでの深さ15cm～30cmを測り溝1、ピット1を検出。

T19～T26では西側のT21、T22、T26などでアカホヤまでの深さが20cm～30cm、東側のT19、T25などで40cm～90cmを測る。T26ではピット5が検出されている。

T27、T28はアカホヤまでの深さが20cm～30cmでT27からは溝2が検出されている。

T29～T34ではアカホヤまでの深さが40cm～80cmと南東へ傾斜する。T29で土壇1、T31で溝2を検出している。

T35、T36ではアカホヤまでの深さが30cmであるが80cmしたで集石が検出された。



第9図 西都原地区遺跡群A地区トレンチ配置図(1/4,000)

T37～T39ではアカホヤまでの深さが20cm～30cmである。T27とT28で古墳の周溝が確認された。範囲の確認を行なったところ径約19mの周溝である。139号墳の西約12mに位置する。

T40、T41ではアカホヤは削平されており25cm～30cmで集石が検出されている。

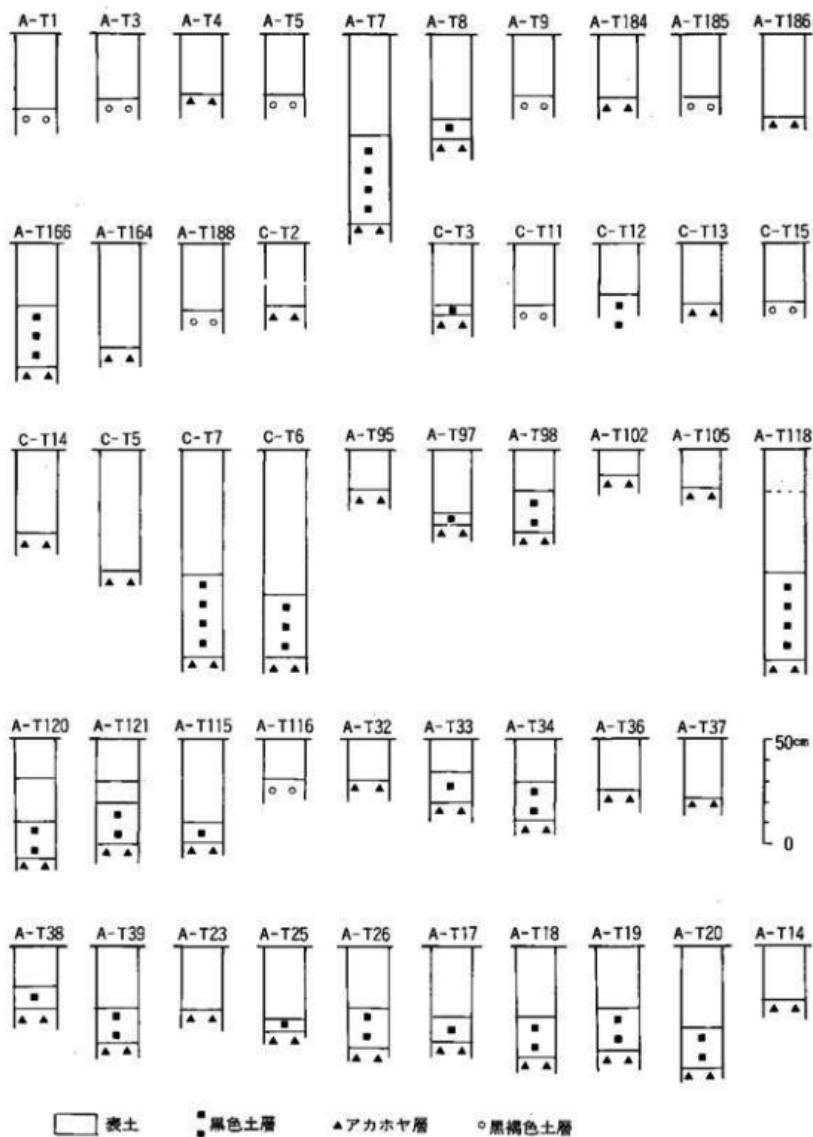
なお、C地区においても西都市教育委員会が実施した地下レーダー探査で④、⑤、⑥地點周辺で地下式横穴と思われる反応が確認された。



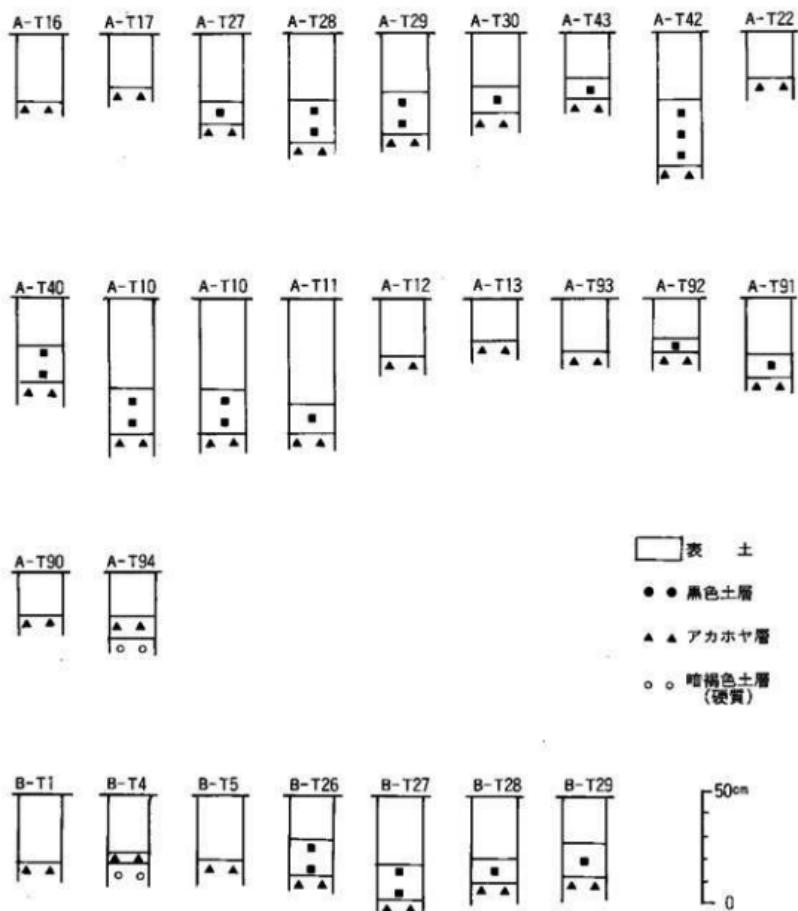
第10図 西都原地区遺跡B地区トレンチ配置図(1/4,000)



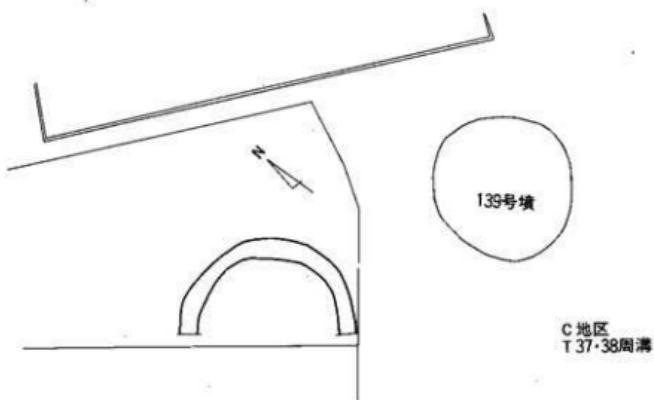
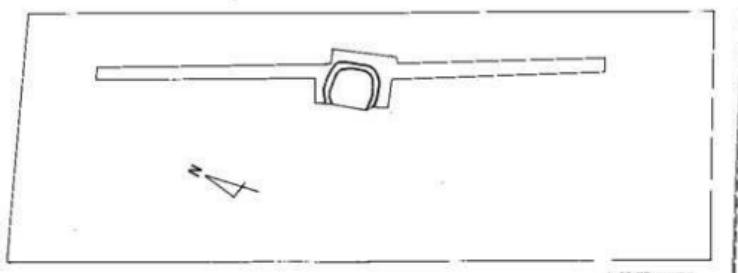
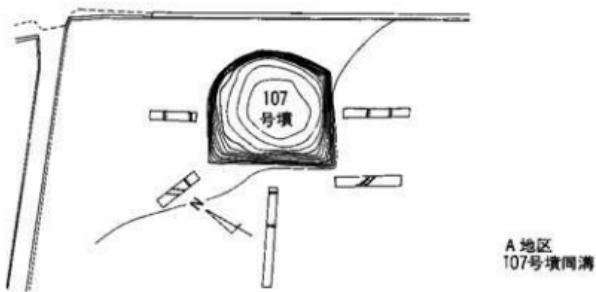
第11図 西都原地区遺跡群C地区 トレンチ配置図(1/4,000)



第12図 西都原地区遺跡A・C地区土層図



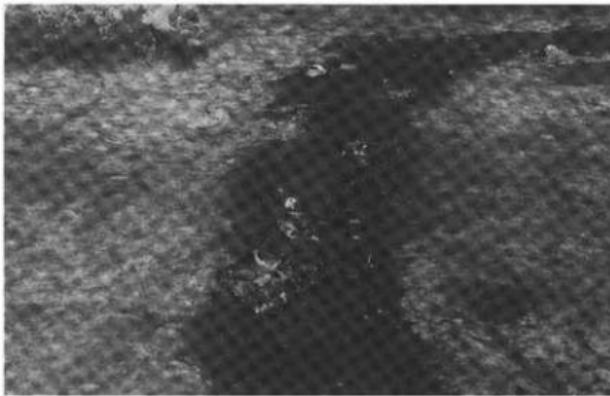
第13図 西都原地区遺跡A・B地区土層図



第14図 西都原地区遺跡群造構実測図(1/600)



A 地区 T 159  
周溝状遺構



A 地区 T 159  
遺物出土状况



C 地区  
T 37、38周溝

**平成5年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書**

平成6年3月

**発行 宮崎県教育委員会**

**編集 宮崎県教育庁文化課**

〒880 宮崎市橋通東1-9-10

TEL 0985(26)7251

**印刷 宮崎南印刷**

〒880 宮崎市大字田吉350-1

TEL 0985(51)2745